

# ま え が き

変化の激しい社会を生きるために必要な「生きる力」の育成に向けては、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と思考力・判断力・表現力等や主体的に学習に取り組む態度を育むことが求められており、そのためには、各教科における言語活動及び指導と評価の一体化の一層の充実を図ることが必要であります。

こうした中、本年8月には、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会より、「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」が公表され、生徒にこれからの時代を切り拓いていくために必要な資質・能力を育むためには、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点からの学びを実現させることが重要であることなどが示されました。

本年度の手引では、これらを踏まえ、「学習指導と評価における課題」、「育成すべき資質・能力を踏まえた学習指導・評価の改善・充実」等を取り上げるとともに、学びの過程を重視した指導やアクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善についての指導事例等を掲載することとしました。

各学校において、本手引が十分に活用され、学習指導や学習評価の改善が図られるとともに、地域や学校の実態に応じた創意工夫あふれる特色ある教育課程が編成・実施されるよう願っております。

平成28年11月

北海道教育庁学校教育局高校教育課長

河原 範 毅